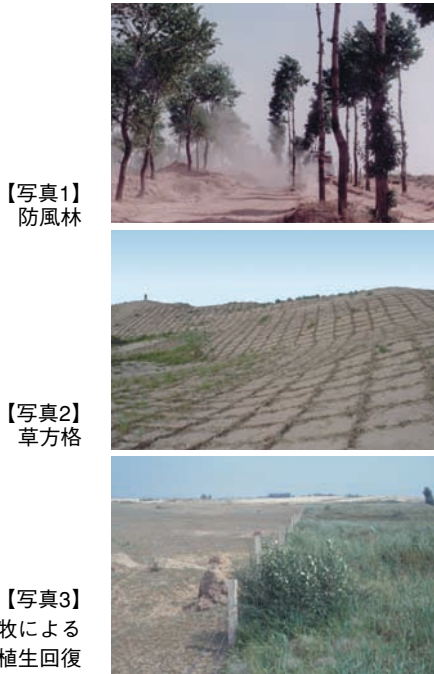


# 黄砂対策に向けた取組み

黄砂対策には、短期的な対策である予報・警報と、長期的な対策である発生源地域の保全など様々な取組みがあります。そのため、優先度を踏まえて短期・中長期的に行うべき対策内容を検討し、計画的に進めていくことが重要です。

## 黄砂発生源対策

黄砂が発生する地表面状況を改善し、砂塵の舞い上がりを抑制するために、様々な方法が試みられています。



【写真1】  
防風林

【写真2】  
草方格

【写真3】  
禁牧による  
植生回復

### 土地被覆状況の改善・復旧

- ・劣化した土地の再植林・植草を通じた裸地の減少
- ・春の耕起による地表面軟弱化の防止（多年生作物の栽培等）

### 風による侵食・砂の移動の緩和

- ・防風林帯【写真1】の形成
- ・麦わらなどを格子状に砂中に差し込む草方格【写真2】による地表面風速の減退
- ・ほふく性の植物による砂丘の移動の抑制

### 人為的な影響の緩和

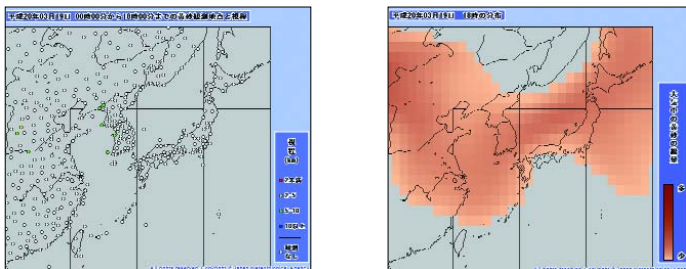
- ・劣化した土地をフェンスで囲い込み、家畜・人間の草地への立ち入り制限（禁牧）による植性回復【写真3】
- ・法制度的な伐採・開墾の禁止
- ・劣化した土地からの移転補助
- ・燃料としての木材の伐採を防止するための、かまどの熱効率・住宅の断熱効率の改善

### 土地の環境容量の改善

- ・水管理や節水技術の導入による水の効率的な利用
- ・家畜の堆肥などの施肥による土地の生産力向上

## 黄砂予報

気象庁では、黄砂に関する気象情報の発表に加え、気象庁ホームページ上に目視による黄砂観測実況図及び黄砂モデリング（コラム2参照）による翌日の予測図を掲示しています。



気象庁ホームページ「黄砂情報」 [http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/kosahp/info\\_kosa.html](http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/kosahp/info_kosa.html)

## 日中韓三カ国黄砂局長会合



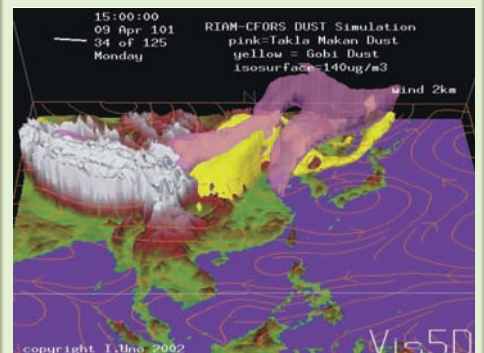
第2回日中韓三カ国黄砂局長会合  
(2007年9月 東京)

2006年に開催された第8回日中韓三カ国環境大臣会合の合意を受け、北東アジア地域における黄砂対策に関する地域協力を推進するため、日本、中国、韓国の三カ国の局長級会合が設置されました。この会合には、日本、中国、韓国の担当局長の他、モンゴル、関係国際機関の代表が出席し、黄砂に関する施策の意見交換や、黄砂に関する共同研究を推進しています。

## コラム2

### 黄砂モデリング

黄砂の飛来やその濃度を、コンピュータ計算により予測・検証を行うのが黄砂モデリングです。黄砂の輸送をモデル化するためには、地域気象のモデル、砂塵の舞い上がりのモデル、大気中での黄砂の移動と拡散のモデル、黄砂の沈着・除去や化学反応のモデルなどが組み合わされています。計算結果は、気象情報に利用されるほか、発生源の推定や将来の気候変動への影響の予測など、様々な目的に利用されています。



九州大学CFORSによる黄砂飛来シミュレーション